

氏名	丸山優	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1999年千葉大学看護学部卒業、2004年千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了、2017年順天堂大学医療看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助手、2012年同講師、2018年同准教授				
所属学会（役職）	日本老年看護学会（理事）、日本認知症ケア学会（代議員）、日本看護科学学会、日本看護教育学会、千葉看護学会、プライマリケア学会、日本保健医療福祉連携教育学会、S P U学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	認知症高齢者の生活の継続を見据えた急性期病院における看護の構造-開放型病床での看護実践の質的分析-	共著	あり	老年看護学、25（1）、87-96	丸山優、田中敦子、水間夏子、大塚真理子	2020.7
2	認知症ケアに携わる専門職を対象とした連携力強化を目指した研修プログラムの評価	共著	あり	宮城大学研究ジャーナル、1（1）、55-63	出貝裕子、大塚真理子、中込沙織、成澤健、徳永しほ、桂晶子、萩原潤、國澤尚子、丸山優、畔上光代、横道弘道、斉藤文子	2021.3
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	A町の認知症連携ケアリーダーが考える認知症連携ケアの理想に対する活動の検討-実効性と実現性の視点から-	共同	第21回日本認知症ケア学会（Web配信）	○丸山優、畔上光代、國澤尚子、木戸宜子、大塚真理子	2020.5	
2	A町で実施した認知症連携ケアリーダー研修会の成果と課題	共同	第21回日本認知症ケア学会（Web配信）	○畔上光代、國澤尚子、丸山優、木戸宜子、大塚真理子	2020.5	
3	A町における認知症連携ケアリーダーの連携実践力	共同	第21回日本認知症ケア学会（Web配信）	○國澤尚子、丸山優、畔上光代、木戸宜子、出貝裕子、桂晶子、成澤健、萩原潤、中込沙織、徳永しほ、大塚真理子	2020.5	
4	認知症高齢者の長期療養プロセスと連携ケアを視覚化するツールの開発と効果-多機関の多職種との研修を通じて-	共同	第日本老年看護学会第25回学術集会（紙上発表）	○中込沙織、大塚真理子、出貝裕子、成澤健、桂晶子、徳永しほ、斉藤文子、國澤尚子、丸山優、畔上光代	2020.6	
5	認知症連携ケア研修前後の専門職種連携実践コンピテンシーの変化	共同	日本老年看護学会第25回学術集会（紙上発表）	○出貝裕子、大塚真理子、中込沙織、成澤健、桂晶子、萩原潤、徳永しほ、國澤尚子、丸山優、畔上光代	2020.6	
6	A町の認知症支援のためのベースライン調査(2)-IPWコンピテンシー自己評価尺度による職種の特徴-	共同	第13回日本保健医療福祉連携教育学会（オンライン開催）	○國澤尚子、出貝裕子、桂晶子、成澤健、中込沙織、萩原潤、丸山優、畔上光代、木戸宜子、大塚真理子	2020.9	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	将来構想検討プロジェクト報告-日本老年看護学会の将来に向けた提言-	共著	日本老年看護学会第25回学術集会	正木治恵、五十嵐歩、田中中和子、丸山優、宮本良子、綿貫成明	2020.6	

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）	認知症高齢者と家族の質の高い継続的な暮らしを目指した研修の社会実装と評価	研究分担者	2018.4～2022.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	急性期病院における高齢患者に対する身体拘束適正化に向けた包括的ケアプロトコル開発	研究協力者	2017.4～2021.3
3	埼玉県立大学・奨励研究	フレイルから終末期までとぎれない看護実践に関する研究	研究代表者	2020.4～2021.1
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅲ		2	3年次生を対象に、医療機関と地域が継続して高齢者を支援することを学べるようにグループワークを支援した。
2	在宅看護学特論Ⅰ（大学院）		2	ICFについて教授し、医学モデルによる問題志向型アセスメントと、社会モデルによる目標志向型アセスメントを事例を用いて、医学モデルと社会モデルの統合を学べるよう工夫した。
3	老年看護援助論（大学院）		2	人生の終焉におけるエンド・オブ・ライフケア（晩年期ケア）について教授し、各自の体験事例を用いて、老年期の「死」を含めた看護のあり方について考察した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅱ	○	30	3年次生を対象に、老年看護の対象者理解と援助方法の学習を目的として、講義、事例演習を行った。今年度は、遠隔授業に対応するため、オンデマンド講義、WebClassを用いた学習成果の共有と意見交換、リアルタイムでの演習を行い、学生が主体的に取り組めるよう教材を工夫した。科目責任者として、学生の間評価を基にグループワークが円滑に進むよう、主体的に進行する方法を工夫した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学実習Ⅰ	○	2020.6	2年次生を対象に老人福祉センターにおける実習を担当した。遠隔での実習に対応し、高齢者への電話インタビューとインターネットを活用した地域に関する情報収集を実施した。
2	老年看護学実習Ⅱ		2020.10～12	3年次生を対象に、パーキンソン病をもつ高齢者への看護過程の展開について遠隔で指導した。
3	総合実習（老年看護学領域）		2020.7	4年次生を対象に、遠隔での実習に対応し、入院治療を受ける認知症高齢者の事例を作成し、看護過程の展開を指導した。
4	IPW実習		2020.8～10	遠隔実習で、対象者の望む生活を支援するための多職種で協働した活動について学生が主体的に学べるように支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2020.4～2021.1	主指導 4名	副指導 0名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			

4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師			
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	看護研究指導講師	越谷誠和病院	看護研究指導
2	看護研究発表会講評	越谷誠和病院	看護研究発表に対する講評
3	埼玉未来大学（熊谷）講師	公益財団法人いきいき埼玉	認知症と生活習慣病
4	埼玉未来大学（川越）講師	公益財団法人いきいき埼玉	認知症と生活習慣病
5	IPW総合課程講師	埼玉県立大学	IPWの基礎（5） IPWにおけるチーム活動とチーム形成
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	日本老年看護学会	生涯学習支援委員会委員	2018.6～2020.6
2	日本老年看護学会	将来構想検討プロジェクト委員	2019.6～2020.6
3	日本老年看護学会	査読委員	2018.7～2020.6
4	日本老年看護学会	理事（庶務担当）	2020.6～2022.6
5	日本老年看護学会	基盤強化推進プロジェクト委員	2020.6～2021.3
6	日本老年看護学会	編集委員会委員	2020.6～2022.6
7	千葉看護学会	査読委員	2018.4～2021.3
8	日本保健医療福祉連携教育学会	査読委員	2020.2～2023.3
9	日本認知症ケア学会	代議員	2020.5～2024.5
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	教務委員会委員	2020.4～2021.3
2	学科等における委員会等	カリキュラム検討	2020.4～2021.3
3	学科等における委員会等	看護学科将来構想検討プロジェクトメンバー	2020.9～2021.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			